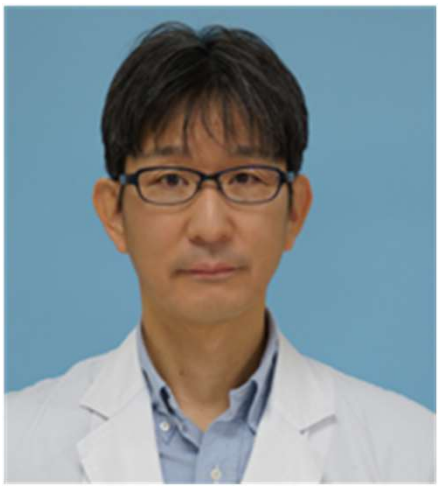
当センターの理念

リハビリテーション医療の技術を通じ、身体障害者及び地域住民のＱＯＬ（生活の質の向上）に奉仕する。

吉備高原医療
リハビリテーションセンター広報誌
２０２５年　（第１４１号）

新規採用者ご挨拶



内科部長

加藤　健一

皆様、こんにちは。令和7年4月より内科医として吉備高原医療リハビリテーションセンターに赴任いたしました加藤健一と申します。私はこれまで、大規模急性期病院からへき地病院、地域の小規模病院、リハビリテーション病院など様々な規模・タイプの病院で糖尿病専門医・総合内科専門医として勤務してまいりました。これまでの経験を活かして当センターでも患者さん一人ひとりのライフスタイルに合わせたきめ細やかな診療を心がけ、共に病状の改善を目指していきたいと考えております。
特に専門といたします糖尿病分野では、最新の知見に基づいた治療はもちろんのこと、食事療法や運動療法、そして日常生活における注意点など、患者さんが安心して療養生活を送れるよう、丁寧な情報提供と相談を行ってまいります。
また、糖尿病以外でも、些細なことでも構いませんので、気になることや不安なことがございましたら、遠慮なくお声がけください

リハビリテーション科医師

豊田　康介

このたび、吉備高原医療リハビリテーションセンターに着任いたしました、豊田康介と申します。患者様一人ひとりに寄り添い、生活の質や社会復帰を支えるリハビリテーション医療の力を改めて実感しながら、日々の診療にあたっています。この恵まれた環境の中で、多職種の皆様と協働し、多くの学びを得ながら、医師として成長していきたいと考えています。少しでも患者様のお役に立てるよう努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

糖尿病治療の最新事情

糖尿病は、血液中の「血糖値」が高くなりすぎる病気です。健康な人は、すい臓から出る「インスリン」というホルモンの働きで血糖値を一定に保っていますが、糖尿病になるとこのバランスが崩れ、高血糖が続くようになります。高血糖の状態が長く続くと、目が悪くなったり（網膜症）、腎臓の機能が低下したり（腎症）、足のしびれや傷が治りにくくなったり（神経障害）する「合併症」が起きやすくなります。さらに、脳卒中や心筋こうそくといった重い病気のリスクも高まります。糖尿病治療は、「食事・運動・薬物療法」の3本柱が基本ですが、最近では治療法が大きく進化しています。

新しい薬の登場

近年、注目されているのがSGLT2阻害薬とGLP-1受容体作動薬という新しいタイプの飲み薬や注射薬です。

- SGLT2阻害薬は、体にたまった余分な糖を尿と一緒に外に出す薬です。血糖を下げるだけでなく、体重減少や心臓・腎臓を守る働きも期待されています。
- GLP-1受容体作動薬は、血糖の上昇を抑えるホルモンの働きを助け、食欲を抑える作用もあります。注射タイプが多かったのですが、近年は飲み薬のタイプも登場し、使いやすくなっています。

これらの薬は、血糖値だけでなく合併症予防にも役立つことが分かっています。

血糖測定も進化

以前は、血糖値を測るたびに指に針を刺して採血する必要がありました。しかし、今では「持続血糖測定（CGM）」という新しい方法が登場しています。これは皮膚に小さなセンサーをつけて、血糖の変化を24時間測定する仕組みです。

基本は生活習慣の見直し

どんなに薬や機器が進歩しても、糖尿病治療の基本は「食事」と「運動」です。

食事は、炭水化物（ごはん・パン・麺類）をとりすぎないように注意し、野菜やたんぱく質をしっかり摂ること。

運動は、無理のない範囲で毎日続けることが大切です。例えば、15～30分の散歩でも十分に効果があります。

おわりに

糖尿病は「一生つきあう病気」といわれますが、今では治療法が進化し、自分に合った方法でしっかり管理すれば、合併症を防ぎながら健康に過ごすことができます。

大切なのは、「早く気づくこと」と「無理なく続けること」です。健康診断で血糖値やHbA1cの値をチェックし、少しでも気になることがあれば早めに医師に相談しましょう。

内科部長　　加藤　健一

短期入院について

①当センターでは、在宅で生活を送られている脊髄損傷患者を対象に、療養・介護生活を医療面から支えることを目的とした短期入院（ブラッシュアップ入院）を行っております。

当センターでの入院歴があり、在宅で生活している方が対象で、入院期間は1ヶ月程度です。入院中には機能低下に対するリハビリテーション、必要に応じて検査（ＭＲＩ・ＣＴ・血液検査・骨密度・肺機能検査・胃カメラ・座圧測定等）、福祉用具の調整を行っています。

②また、当センターは独立行政法人自動車事故対策機構（以下、ナスバ）が実施する短期入院協力病院の認定を受けております。自動車事故が原因で在宅生活を送られており、ナスバが支給する介護料を受給している方は、リハビリ目的に限り1回あたり30日までの期間において当センターで入院が可能です。また、ナスバから入院にかかる費用が助成されます。（年間の上限日数は45日）

短期入院を希望される方は、当院の地域医療連携室（TEL:0866-56-7046）までご相談ください。

右のQRコードからナスバの関連ページにリンクします。

独立行政法人自動車事故対策機構関連URL

https://www.nasva.go.jp/news/pdf/2022/20220401_2.pdf

外来担当表（令和７年５月１日現在）

受付時間　午前８時１５分～午前１１時３０分まで
(都合により診療日が変更となる場合があります。)

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科 1診	谷	市川 (呼吸器)	谷		
	内科 2診	加藤 (糖尿病)		加藤 (糖尿病)	松田 (血液)	
	内科 3診					來間 (血液)
	循環器内科 ※診療　8:50～11:00 ※検査　11:00～12:00		宮地		宮地	宮地
	胃カメラ			中藤 (第1･3･5)		
	脳神経内科	髙宮				
	整形外科1診	田岡	徳弘		黒住	
	整形外科2診	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本
	リハ科	岩井	池田	古澤	難波	難波
	泌尿器科	国立医師				岡大医師
	皮膚科 (完全予約制) 受付時間8:15～11:00		国立医師 (第2･第4)			国立医師
	歯　科(予約制)	合田	合田	合田	合田	合田
	その他	Brace Clinic 書類外来 (徳弘)	早田 (看護相談外来)		早田 (看護相談外来)	
午後	内科 1診 (13:00～15:00) 急患	宮地	 市川	谷	谷 (毎月第1/第3) 小池/三上 (毎月第2/第4) 加藤	 來間
	整形外科		(予約制) 濱田(第1･3･5) 岡大医師 (13:00～16:00)	坂本		坂本
	特殊外来					せき損外来 古澤
	看護相談外来		早田		早田	
	泌尿器科(病棟･検査)				膀胱検査外来	岡大医師
	歯　科(予約制)	合田	合田	合田	合田	合田

当センターでは、医療や福祉の医療機関と密接な連携を図り、患者様に適切かつより良い医療サービスが提供できるように「地域医療連携室」を設置しております。
紹介患者さんに関すること、病院受診について当院に関するお問い合わせなどございましたら、どうぞお気軽にお申し付けください。
地域医療連携室の連絡先・業務時間等は以下のとおりです。

TEL： 0866-56-7046　　FAX： 0866-56-7148
E-mail ：soudan@kibirihah.johas.go.jp
月曜日～金曜日　8:30～17:00（祝祭日・年末年始を除く）